

谷口嘉ガラス展

真夏の薄氷

八月四日(土)―十二日(日) 会期中無休



GALLERY  
うつわノート

料金後納  
ゆうメール

谷口嘉 ガラス展 真夏の薄氷

二〇一八年八月四日(土) ～ 十二日(日) 会期中無休  
 営業時間 十一時～十八時  
 作家在廊日 八月四日(土)・五日(日)・十二日(日)

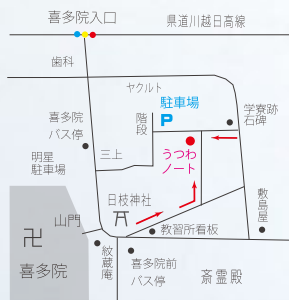
「脆く壊れやすいガラスは、一方で儂く繊細な美しさを併せ持っている。それを受け入れ委ねることで生まれる形は、弱いからこそ持ち得る強い印象をそこはかたく宿している。」神奈川県川崎市で制作する男性ガラス作家・谷口嘉さんの言葉です。多摩美術大学でガラスを学び、工房勤務や大学助手を経て、個展やグループ展でうつわやアート作品を発表しています。その特徴は言葉の通り、ガラスの物理的特性を生かした繊細な美しさを表現することにあります。

今展に出品されるガラスの器は、主にコンクリートで作った型にガラスを吹き込んで成形する「型吹き」という技法を用いています。本来、量産品を作る際に使われる方法ですが、谷口さんの場合、一品づつを手作りする過程で生まれる微妙な揺らぎや、薄作りの危さを取り入れるために選んでいます。また宙吹きのような同心円とは違い、あらかじめ設計した楕円、長方形、四角形など、直線や曲線を使った様々な形にできる利点もあります。

今回、従来のグラス、鉢、ピッチャーなどのラインナップに加え、新作のプレートが並びます。縁に金彩を施した長方、楕円、円、半月形の薄いガラスプレート。それはまるで寒い冬の朝、水の表面に薄く張った水のように繊細で儂い美しさを湛えています。使う側に歩み寄るだけではなく、実用との境界にある美の極を目指す道具の在り方もあるでしょう。酷暑の中の開催となります。谷口さんのクールなガラスにどうぞ触れてください。 店主

谷口 嘉 (たにくち・よしみ) プロフィール

- 1978年 神奈川県生まれ
- 2001年 多摩美術大学デザイン科立体デザイン専攻クラフトデザイン専修ガラスコース卒業  
あづみ野ガラス工房勤務(～06)
- 2006年 多摩美術大学工芸学科ガラス研究室助手(～12)
- 2005年～ グループ展、個展にて活動
- 2018年 現在、神奈川県川崎市にて制作



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分  
 本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
 バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]  
 駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]  
 車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5～8番)

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
 TEL 049-298-8715  
 MAIL utsuwanote@gmail.com

